

水害時の人々のやさしさ

小林 礼美

あの日は、朝からどしゃ降り
の雨だった。しゃべる声をかき消すよ
うな雨音、外になんて出た
くないような日だった。

今日も授業が終わり、いつも
通り、児童クラブへ向かった。
あいかわらず、雨は降った
ままだった。

迎えが遅いのは、いつもの事
だった。そこへ、一本の電話が
きた。どうやら、私の親か

ららしかった。話によると、
迎えがかなり遅くなるらしく、
もしかしたら、愛児園で泊ま
る事になるかもしれないとい
うことだった。まさか泊まる
なんて事はないだろうと思っ
ていた私も、愛児園で夕ご飯
をもらい始めてからは、少し
ずつ不安になってきていた。
弟にそのことを話すと、私に
も弟の気持が伝わららしい。
私も弟も、家に帰りたくて
しかたがなかった。

愛児園に泊まるのかと思っ
ていた時、私の

家の近所のおばさんから、電話があった。なんと、私達の状況を知っているらしく、今夜は家に来て、泊まりなさいということだった。こうして、私達は、泊めてもらうことになったのだった。

そのお家では、お風呂に入らせてもらった。私と一つちがいの子に遊んでもらったり、たくさんのお話をしてもらった。次の日まで、とても安心して過ごすことができた。

次の日になって、昨日の雨で、水びたしになった所があることを知った。私の親も職場が水につかり、一晩そこに残ることになったのだと知った。家にまで水が入りこみ大変だった人もたくさんいた。そんな中で近所の人の家に泊めてもらった私達は、とてもありがたいと思っただ。その人達のやさしさに、感謝したい。

私はこの日に、自然災害の恐ろしさとか、くさんのやさしさを味わった。これからは、このやさしさを、たくさんの人に分けてあげ

